

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		発達療育 レンテ川崎 (放課後等デイサービス)			公表日	令和8年3月10日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個室と集団を行う部屋を分け定員の受入を行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		人員配置を適切に行い、安全管理や面談の対応もやっている	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		シンプルな作りでわかりやすくなっている。建物の2階にあるので階段必須だが、室内はバリアフリーになっている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		各部屋に基本的なグッズの準備や毎日のチェックにより物品の不足が無いようにしている	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		お子さんの好みや希望で使えるわけではないが個室がいくつかある	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか。	○		全職員ではないが、それぞれが必要な部分を行っている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年1月に保護者に評価のお願いをお渡しし、業務改善に役立てさせてもらっている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に行っている面談以外にも、決まったタイミング以外でも意見や質問は受け付けている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	個人情報保護の観点から行っていない	ニーズや必要性を社内でも検討の必要がある
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内での研修が月1回以上あり、その他に勉強会なども実施している	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		公表されている	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		こども家庭庁からの支援計画についての指針をもとに作成の手順や必要な情報をそろえ作成している	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児発管以外も参加し作成会議を行っている	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		いつでも閲覧できるよう、データも共有し、支援の前にも確認できるようにしている	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		ABAの公式なツールでの評価のほか、事業所内で決まったフォーマットにて記録を残している	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		必要のない部分は記入していないが、本人のニーズ保護者のニーズを加味し本人支援以外の欄も作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		グループセラピーに関しては担当者同士で月ごとのイベントや行事に合わせた工作や体操の立案を行っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		月ごとに違うことを行っているが同月内で同じことをやる場合もある。前回やった手順を覚えてるか、改善されているか等の確認のためにあえて行っている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		お子さんの課題に合わせて個別と集団を組み合わせている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		大きなチームではないが担当する職員との打ち合わせやお子さんのアセスメントの共有を行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		直接打ち合わせが難しい場合はそれぞれが記録に残し共有している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録忘れがないかの確認も行いながら、漏れが無いようにしている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		漏れずに書いた記録も参考にし、モニタリング、見直しを行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		参加機会は児発管だけでなく、お子さんの様子を理解している人間や、出ることが望ましい者が参加している	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		選択肢をわかりやすく提示し自己決定や相手に要望を伝えることを優先的に取り組んでいる	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		役職や立場にとらわれず、適した人材が参加している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		ニーズや必要に応じて対応している	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		ニーズや必要に応じて対応している	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて行っている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		これまでそういった機会がないが、必要となったときに困らない書類や準備はある	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて連携する	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	個人情報保護の観点から行っていない	ニーズや必要性を社内でも検討の必要がある
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		機会があれば参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		フィードバックや面談を行い情報共有している	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		webセミナーやご兄弟の関わりについての助言や保護者も一緒に行うペアレントトレーニングをできる範囲で行っている	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		ご利用開始前に行っている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		ニーズの確認やお子さんの要求がどこにあるのかを事前に確認している	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		得ている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		その場で時間を作るのが難しい場合は後日の面談になることもあるが、親身に対応している	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	ニーズにばらつきがあり開催していない	ニーズや必要性を社内でも検討の必要がある
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		契約書に明記している	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		お便りを配布している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付き書庫や、イニシャルを使用した保管を行っている	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		言語以外のコミュニケーションツールや、お子さんの行動から望んでいることを推察し、やり取りを促している	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	招待するような行事は行っていない	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		手に取れる場所にマニュアルを設置し、訓練も行っている	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		確認している	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示書が必要なまでのアレルギーはこれまでにはないが、必要があれば対応する	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		訓練や研修を行い安全に必要な体制や環境を整えている	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時と避難訓練時にお伝えしている	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		回覧周知している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		毎年外部研修参加者を選出し、持ち帰り研修している	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		虐待防止委員会にて報告、取り組み、経過の確認を行い、減少するよう取り組んでいる		